



卒業おめでとう



## 卒業証書授与式



本日3月12日(木)9時30分から、第73回卒業証書授与式を行いました。残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大防止で、臨時休業のため、在校生、ご来賓の列席のない中での卒業式となりました。会場は窓を開放し、式の内容も変更して時間を短縮して行いました。

久しぶりに会った3年生の姿は、落ち着いて、大きく見えました。義務教育9年間の成長を感じたところです。式の後、教室で最後の学活を行いました。担任から証書の授与があり、最後のクラス写真を撮りました。

### ◎卒業生答辞

冬を越え、日に日にやわらかさを増す日差しが、私達の進む未来を明るく照らしてくれています。まるで、初めてこの制服に身を包んだあの日を思い出させてくれるかのような、朗らかな光です。あれから三年、私達160名の卒業生は、この学舎を旅立ち、今まさに、それぞれがそれぞれの道へと舵を切ろうとしています。一見、またたく間に過ぎ去った日々。しかし、今私達がこうして自分の道を切り開こうとすることができるのは、短い時間の中で、多くのことを経験し、その度に成長することができたからです。

一年生、新しい環境に新しい出来事と、入学して間もない頃は、毎日がおぼつかないことで埋め尽くされ、慣れようともがくので精一杯でした。そんな私達の救いとなったのは、カッコいい先輩達でした。培遠の代名詞とも言えるソーランに始まり、部活のこと、委員会のことと、分からないことを何から何まで教えてくれました。そんな偉大な先輩の姿に強く憧れ、その背中を追い続けたいという思いが、私達の心の中に芽生えました。

二年生、いざ自分たちの名目に「先輩」という言葉が加わってくると、はじめはどう動けば良いか分からず、困惑する毎日でした。しかし、チャレンジウィークや修学旅行など、学校を離れ、自分の行動に責任が伴う機会が増えるにつれ、だんだんと目指す先輩像が明確化され、常に後輩や学校のことを考えて動けるようになりました。

そして、三年生、学校のリーダーとして躍動する最中、進路選択という大きな大きな試練が、私達の前まで迫って来ました。苦しみながらの決断、そこからの長い受験勉強。失敗はできないというプレッシャーが重圧へと変わり、息の詰まりそうな現実との戦いでした。そんな中で迎えた最後の文化祭。学年が一体となって作り上げたミュージカル。そしてそのワンフレーズ、「みんなが幸せになれたらいいな。」そう、私達は一人じゃない。共に入試に挑む仲間がいる。そしてそのみんなが合格に向けて手を取り合えば、必ずやれる。9月の文化祭は、私達にとってかけがえのない存在について、気付かせてくれました。受験はもう幕を閉じましたが、それまでの長い道のりの中で、仲間を支えたこと、また、支えてもらったことを私は忘れません。そして、最後にはこうして一人一人が輝く立派な集団に変わったことが、本当に嬉しいです。みんな、今までありがとう。

しかし、こんな貴重な経験と成長は、私達生徒の力だけでは、到底叶わなかったでしょう。三年間の学校生活で、辛い、苦しい、こんな思いに悩まされた時、手を差し伸べてくれたのは、本当にたくさんの人でした。

培遠中学校の先生方。先生方には、三年間お世話になりました。私達が何か新しいことにチャレンジしようとした時、その背中を押してくれたのはいつも先生方でした。そんな心強いサポートにより、私達は充実した日々を送ることができました。ありがとうございました。先生方の教える、未来の自分につなげていきます。

お父さん、お母さん。いつも私達のことを想ってくれて、本当にありがとう。私達が毎日当たり前のように学校に通うことができたのは、家族のために大変な思いをしてまで働いてくれるお父さんと、毎朝早くから私達のお弁当を作り、私達を温かく見送ってくれたお母さんがいたからです。時には自分勝手なことを言って、対立し、けんかに発展してしまうこともありましたが、それでも自分のことを信じてくれる親の存在に、何度も心を打たれました。当時の自分なら言えなかった思いも、今なら堂々と言えます。あの時はごめんなさい。そして、本当にありがとう。私達も将来、お父さんやお母さんのように、立派な大人になって、輝いてみせます。

さて、今まさに私達は旅立ちようとしています。未練はありません。次の舞台でどんな試練が待ち受けていようとも、「たんぽぽ魂」を胸に、自分の信じた道を突き進んでいきます。明るい未来へ、これからも、夢を志にチャレンジ。

卒業生代表 児玉 悠太





## ◎在校生送辞

寒さもようやく和らぎ、あたたかい春の訪れを感じさせる今日の佳き日に、晴れて培遠中学校を旅立られる卒業生の皆さま、ご卒業おめでとございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今まで先輩方と過ごした日々、教えていただいた事は、私たちにとって一生忘れられない宝物です。数々の思い出が、昨日のことのように思い出されます。

体育大会では、在校生の手本となり、私たちを常に引っ張って下さいました。三年生の競技「ステイック・ザ・フラッグ2019」では、支える人・登る人全員が協力し正々堂々と戦う姿に、仲間との強い絆や仲間を信じることの大切さを感じ、「一生懸命はかっこいい」と本気で思いました。また、その姿から「チーム培遠」の凄さを改めて実感しました。

文化祭では、難しいミュージカルに挑戦された先輩方。全員が同じ方向を向き、仲間と共に一つのものを作りあげようと練習を重ね、全力を尽くす姿に感動し、本番では演技力や演出に圧倒され、胸が熱くなりました。

部活動では、未熟な私たちに優しく、時に厳しく指導して下さいました。試合に負けて落ち込んでいた時も、いつも優しく慰めて下さいました。先輩方の素晴らしいプレーに少しでも追いつきたい。もっと強くなりたい。私たちに、本気になることの大切さを教えて下さったのも先輩方でした。

生徒会活動では、より良い学校づくりを目指し先輩方が日々全力で取り組まれる姿は、いつも私たちの目標でした。文化祭で先輩方と舞台にたち、共にやり遂げた時の感動と達成感は、かけがえのない思い出です。

どんな時も私たちのことを考え、寄り添って下さった先輩方。ここまで、私たちが成長できたのは、先輩方の優しさと先輩方に学び、受け継いだ「たんぽぽ魂」のおかげです。私たちはこれから、本校の素晴らしい伝統を受け継ぎ、みんなで協力して、さらに誇れる培遠中学校を築いていきます。

これから先、先輩方は自分で決めた道を歩み続けていきます。夢や希望に向かって進む途中には、想像以上の厳しい壁が待ち受けているかもしれません。挫けそうになった時には、培遠中学校での三年間を思い出して下さい。学校を支え、いくつもの困難を乗り越えてきた先輩方なら、校章にもあるたんぽぽのように、どこに居てもその場所で明るく、根を張り、花を咲かせることができると信じています。

先輩方が旅立られていく未来が、太陽のように明るく光り輝いた場所であることを、在校生一同、心よりお祈りしています。

最後になりますが、三年間培遠中学校と、私たち在校生を支えてくださり本当にありがとうございました。

在校生代表 大田 梓恩



## 校長式辞

皆さんは、培遠中学校の歴史をつくりました。後輩にモデルを示しました。感謝の言葉しかありません。

皆さんに、これまでも話してきたことの二つをお話しします。

一つ目は「自分で決める」ということです。「自分で決める」ということは、人生成功の鍵です。これは、重大な決断だけではありません。日常的な小さなことでもです。自分が決めたことに責任をもち、積み重ねをすることが大切です。自分で決めたことを、実行し、成功体験をしたときに、私たちは、自信がつかます。自分が決めて実行したことが、いつも成功するとは限りません。その時は、もう一度、自分で決めましょう。成功するまで、チャレンジするのです。

二つ目は、培遠中学校の校名のことです。培遠とは、「培うは遠きかな」です。新しい文化を定着させるためには、何百年も先の遠い将来を見通して、培う必要があるという意味です。皆さんは、培遠中学校で、こつこつと続けることの大切さを、体験を通して学びました。物事は、なかなか思うような結果は生まれないものです。実現できることを信じて一歩一歩、歩んでください。培遠という校名に込められたメッセージを、これからも大切にしてください。

最後に、「たんぽぽ魂」を大切にしてきたみなさんの門出に当たり、たんぽぽ魂の詩を書いた坂村真民のことばを贈ります。

たんぽぽの根のごとく  
 踏みじられても  
 食いぢられても  
 芽を出し／花をつける  
 強さを持って  
 幸福をまき散らすというのが  
 たんぽぽの花ことばだが  
 自分の幸せを求めながら  
 人の幸せを考えてゆく  
 人間になれ  
 それをこのたんぽぽから学べ

若い諸君よ  
 たんぽぽの根のごとく  
 強い力で生き堪え  
 たんぽぽの花のごとく  
 人生を美しく送ってくれ給え

